

熊本城櫓方門 建物調査報告



熊本城櫓方門 建物調査報告

■ 調査概要

本調査は、熊本城櫓方門について、史料・工事記録類の収集・整理および現況調査を行い、史実に基づく建築年代、および現存遺構の遡る年代・形式技法の踏襲性を検討し、現存遺構が有する歴史的・文化的価値を検討するための基礎資料を作成することを目的とする。

史料・記録類調査では、近世史料から（細川家関係文書を中心として）熊本城内における櫓方会所関係史料を抽出し、櫓方門の建築年代（または起源）を検討するとともに、現代の櫓方門に関する工事記録類から、工事履歴を整理する。

現況調査では、現存建築物の実測調査を行い現況図面を作成するとともに、未解体・目視により可能な範囲で、主要構成部材の仕様および経年変化・破損等について整理する。

■ 史料調査

寛延2年（1749）に北側の北大手門脇（現在の加藤神社敷地）に櫓方役所が設置された。（熊本藩年表（永青文庫所蔵））「御城内御絵図」によると、往時の役所位置が分かる。

（一図①参照一）

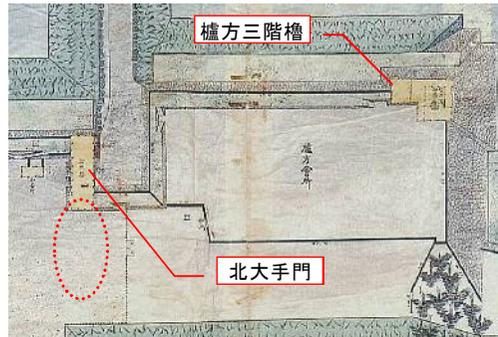
その後、「御城図」によると、敷地西端（現鳥居位置）を、切妻造・瓦葺の長屋門で区切り、その北面は北大手櫓門（現存せず）の石垣に接し、南面は平櫓（現存せず）に接合している。

（一図②参照一）

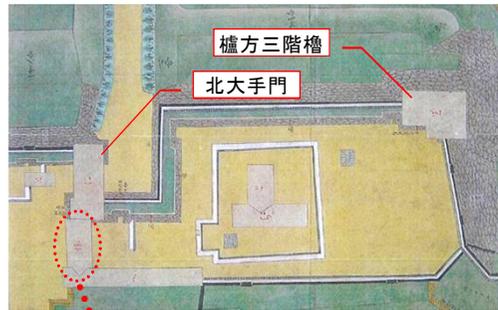
この長屋門は、「御城図」の立面絵図より、北室北側約半間分・南室南側約9間分をそれぞれ除去して、その部分を両袖塀に置換したと理解すると、そのほかの形式は現櫓方門にほぼ符合する。

また同図には棟高「六分五厘」（約5,908.5（mm））となり、現存櫓方門高さ5,689（mm）と近い数値となり、規模もほぼ符合する。（一図③参照一）

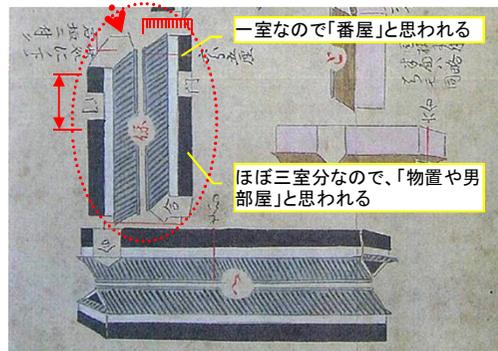
よって「御城図」の長屋門は、現存櫓方門の前身建物と言えるであろう。現在ではその建設年代を明らかにできないが、明和6年（1769）以降からの江戸期と考えることができる。



図① 「御城内御絵図」(部分、明和6年(1769年頃))



図② 「御城図」(部分、年代不詳、永青文庫所蔵(熊本大学保管))



図③ 「御城図」(同、図②)

■ 記録類調査・現況調査

〔表4〕櫓方門に関する履歴表

和暦	西暦	熊本城櫓方門に関する出来事
① 寛延2年	1749	熊本城内宇土櫓北側(現加藤神社敷地)に櫓方役所が設置された。
② 明和6年	1769	「城内御絵図」には、現櫓方門のような長屋門形式の建築物は描かれていない。
③ 江戸後期	(年代不詳)	「御城図」の櫓方役所敷地に、長屋門形式の建築物が描かれている。
④ 明治10年	1877	西南戦争で、天守以下多数の建築物が焼失した。
⑤ 昭和8年	1933	西南戦争で焼け残った城内の建築物17棟のうち、13棟が重要文化財に指定された。
⑥ 昭和29年	1954	現加藤神社敷地にあった櫓方門が半崩壊状態となった。
⑦ 昭和30年	1955	半崩壊状態の櫓方門の実測調査および部材の解体・保管が実施された。
⑧ 昭和31年	1956	櫓方門復旧工事に向けて、木材の一部が購入・加工された。
⑨ 昭和32年	1957	7月～同33年3月、復旧工事にて、竹の丸馬具櫓石垣前に復旧された。
⑩ 昭和33年	1958	7月～8月、移転工事にて、現在の櫓方門の位置に移築された。

⑨⑩については、下記の名称で原義が保存されている
「特別史跡 昭和32年度熊本城跡〔櫓方門・西櫓門石垣〕復旧工事費精算書」
「昭和35年度熊本城跡櫓方門移転工事」

特に「特別史跡 昭和32年度熊本城跡〔櫓方門・西櫓門石垣〕復旧工事費精算書」では、

“昭和29年5月半崩壊、全30年8月実測解体保管、全31年度に木材一部購入、木造りしていたものを、全32年度に完成した。”
“構造手法又継手・仕口等は、在来同様施工する事を原則とするが、耐久上不完全と認められる箇所は、見え隠れに於て、添木・鉄物等によって各部材に適応した補強を講じるものとする”

との記載があり、構造形式については極力、保存に努めた工事であったことがうかがえる。また修理工事における補足財が詳細に記載されており、その数量を現況と比較することにより、古材の状況を把握することが可能となった。

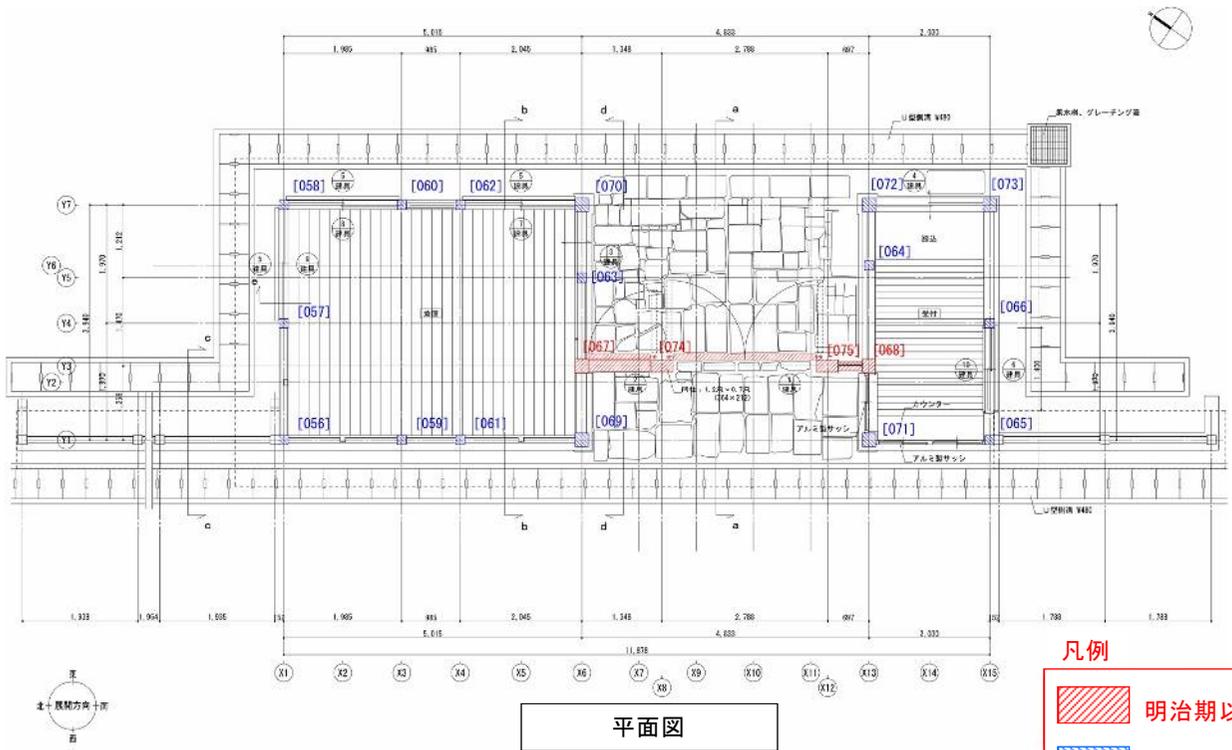
結果、明治期以前のもと思われる古材は、門扉・門柱まわりのみであり、明治期から昭和29年の半崩壊の間に補足されと思われる新古材がそれ以外の柱、その他の部材は昭和32年の修理工事の際に購入された新材であると思われる。（別紙『古材調査図』参照）

■ まとめ

現存櫓方門の建築年代は、明和6年から御城図（上記年表③）の作成年代と思われる江戸後期まで遡る可能性が高いと考えられる。

そのため、建物各部材において建築当初材である可能性が高いものは、門柱2本・両脇柱2本・冠木・門扉・脇壁板材・脇壁上下差物・潜戸・潜戸上下差物が挙げられる。ただし、その他の部材は新材に取替えられてはいるが、構造形式については、現在確認できる修理工事においては、完全に踏襲されていると言える。

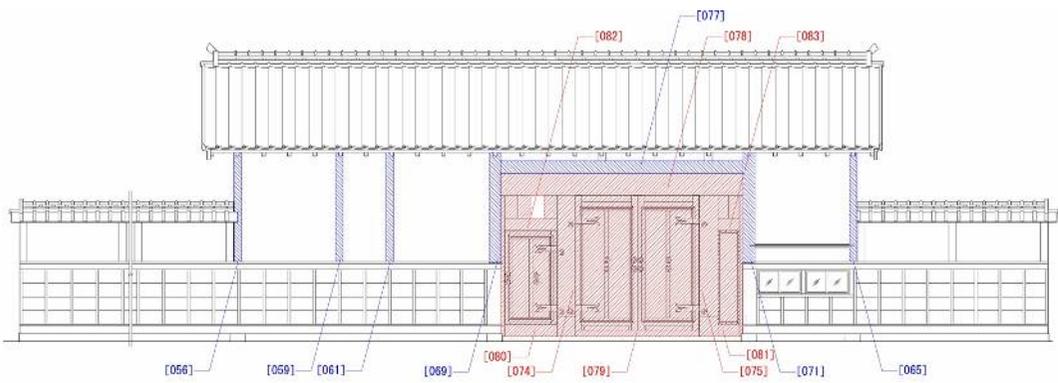
■ 古材調査図



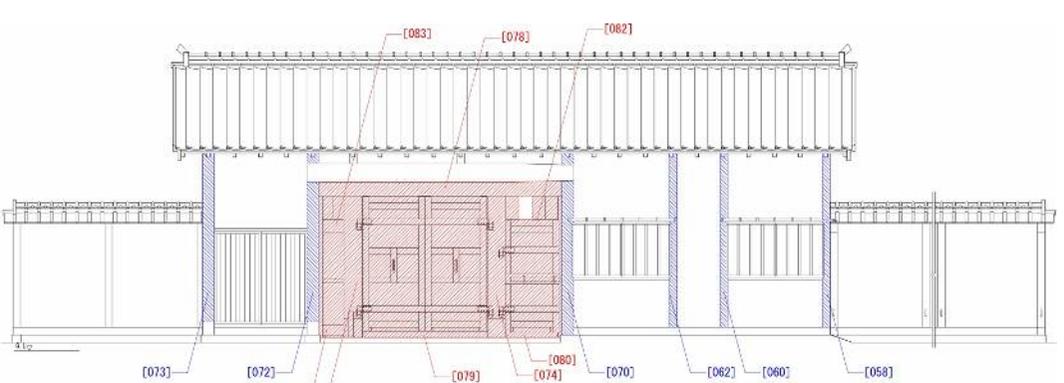
平面図

凡例

- 明治期以前と思われる材
- 昭和初期と思われる材

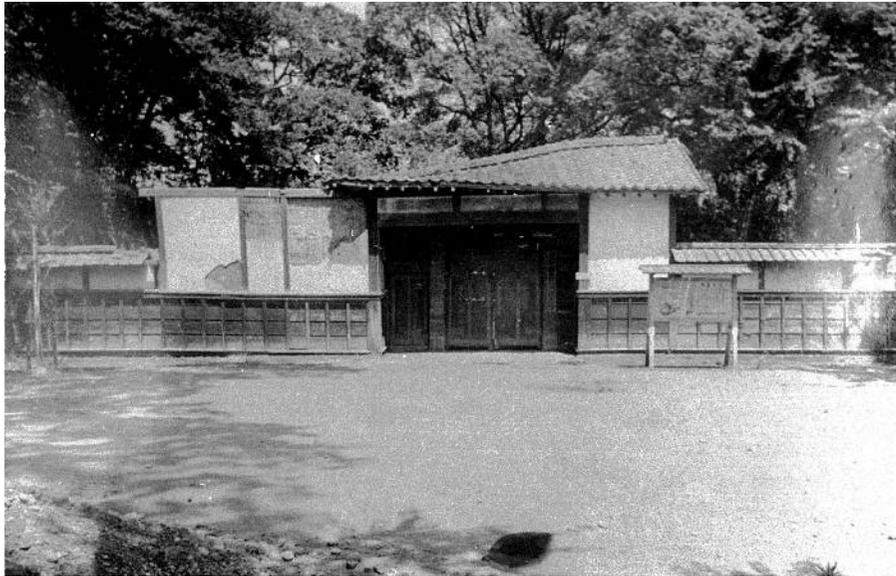


西側(正面)立面図

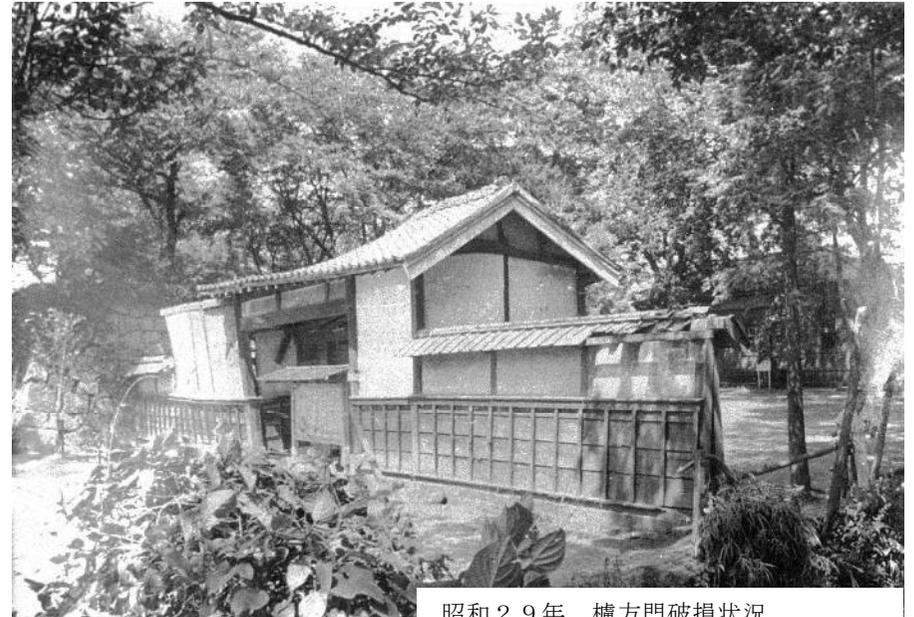


東側(裏面)立面図

■ 参考写真



昭和29年 櫓方門破損状況
現加藤神社 正面入口 (西側より)



昭和29年 櫓方門破損状況
現加藤神社 正面入口 (南西より)



昭和32年 櫓方門修理完了
現櫓方門位置より西側 (西側より)



昭和32年 櫓方門修理完了
現櫓方門位置より西側 (南西より)